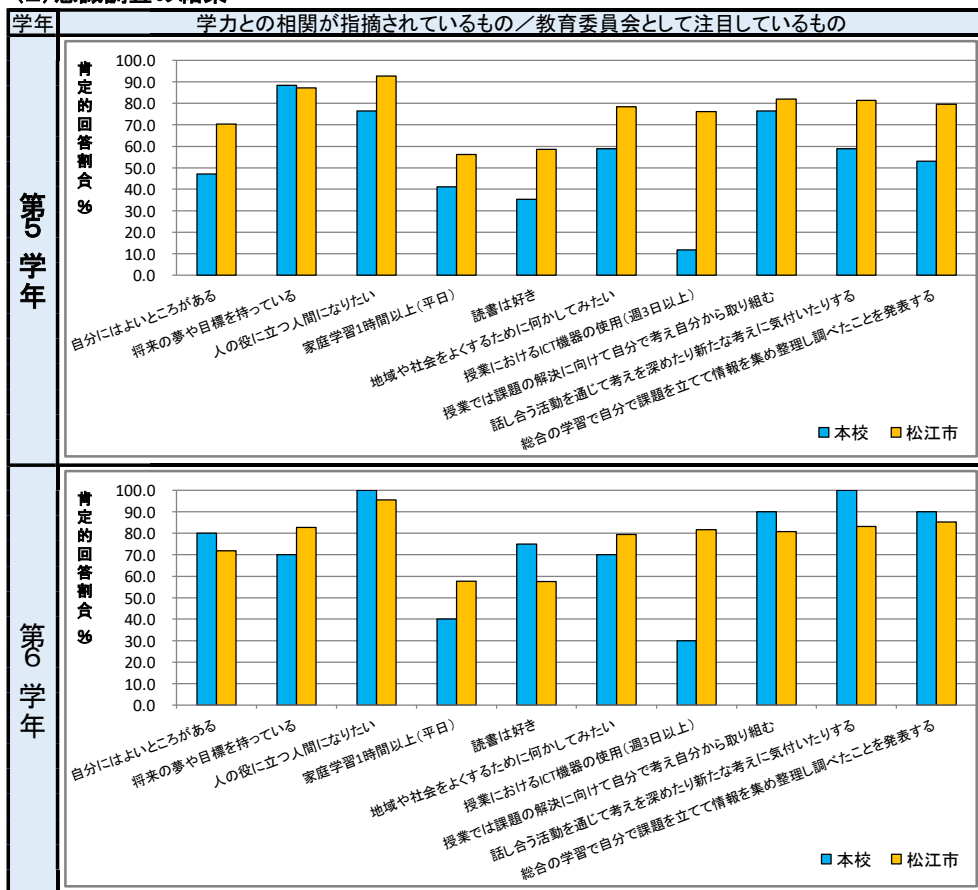


(1)教科調査の結果

学年	教科	分析(成果○/課題●)	改善策(○)
第5学年	国語	成果 ○「話すこと・聞くこと」の項目で、全国推定値を大きく上回っており、日々の校内での取組の成果が表れている。 課題 ●文章を読んだり、登場人物の心情について理解したりすることに課題がある。	・「話すこと・聞くこと」の数値は高いが、「読むこと」の数値が低いことから、視覚的な支援などの配慮を行う。 ・本を読むことで、登場人物の心情に共感する力を養ったり、他者理解のために友達とコミュニケーションをとったりする時間を授業で設定する。
	算数	成果 ○数と計算の領域の小数のかけ算・わり算の、小数倍の文章題で、乗法の式について理解できている。 ○合同な図形の性質について理解できている。 課題 ●図形の角についての理解が低い。 ●文章から立式する力が弱い。 ●分数の通分や約分の理解が低い。	・図形の空間認知ができるような、学習活動を行う。 ・文章から図や表、数直線などを使って考えて立式する学習を積み重ねる。
第6学年	国語	成果 ○「話すこと・聞くこと」の項目が全体的に高く、授業において聞く視点を持つことや要点を伝えることを意識した授業の取組の成果が表れている。 ○文章を読んで、登場人物の心情をとらえたり、想像したりすることができる。 課題 ●言葉の特徴や使い方において、正しい文と文の接続を選ぶことに課題がみられる。 ●正しい修飾語や熟語の成り立ちについて理解している問題の正答率が低い。	・正しい言葉や意味を知るために、読書や辞書を使うことを通して、知識を蓄えるための時間を設ける。 ・文章を文節で区切ったり、短い文で正しい修飾語を選んだりする問題を授業や宿題に取り入れる。
	算数	成果 ○図形の分野の領域について理解できている。 ○データの活用分野の領域について理解できている。 ○文字を使った式について理解できている。 課題 ●変化と関係の領域の比と比の値の正答率が低い傾向がみられる。 ●分数の除法に関する文章題や商の大小などの意味合いについての理解が低い傾向が見られる。	・分数の図を使った問題に取り組んで慣れていく。 ・いろいろな数量を、比を使って表現し、さらに比の値で表す。 ・比の値の変形に慣れる。

(2)意識調査の結果



＜傾向と今後の対策、分析＞

成果○:強み/伸ばしたい点 について
 課題●:弱み/改善を要する点 について

【第5学年】

○全体的に松江市を下まわっているが、「将来の夢や目標」という項目は高い。
 ●「総合の学習で自分で課題を立てて情報を集め整理し、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組む」項目が低く、「読書が好き」の割合が低いということから、読書をすすめ、自ら課題解決をする場面を意図的に設ける。

【第6学年】

○ほとんどの項目で松江市を上回っている。
 ●「将来の夢や目標を持っている」「地域や社会をよくするために何かをしてみたい」という項目が松江市平均を下回っている。今行っていることを広げて、地域社会のことを考え、具体的に実践に移す場面設定を行う。「家庭学習1時間以上」が低い。これについては今後検討していきたい。

【R7学力調査受検者数】

第5学年	17	名
第6学年	20	名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示